

## 飼料用米の多収栽培技術の確立

### 要約

飼料用米において「あさひの夢」の多収栽培技術を栽植密度を変えて検討したところ、収量では供試区①（栽植密度60株/坪）が最も多くなった。  
発酵鶏糞施用+60株植えは収量安定化の手段の1つとして有用であると思われた。

### ○ 展示のねらい

飼料用米の作付を推進するには、収益を確保するための多収栽培技術の確立が必要である。  
令和3年度の試験では増収を確認できたが目標の720kg/10aの収量を達成できなかった。  
そのため更なる安定生産に向け、適切な栽植密度を検討する。

区分	品種	栽植密度	施肥 (kg/10a)			
			堆肥	基肥	追肥(出穂前20日)	N計
1 供試区①	あさひの夢	60株/坪	発酵鶏糞	オール14(14-14-14)	NK505(15-0-15)	
			150kg	80kg	20kg	
			N2	N11.2	N3	N16.2
2 供試区②	あさひの夢	50株/坪	発酵鶏糞	オール14(14-14-14)	NK505(15-0-15)	
			150kg	80kg	20kg	
			N2	N11.2	N3	N16.2
3 慣行区	あさひの夢	50株/坪		オール14(14-14-14)	NK505(15-0-15)	
				80kg	20kg	
				N11.2	N3	N14.2

### ○ 主な成果

供試区①は発酵鶏糞の投入と多肥により生育初期から分けつが促進され多くの穂数を確保することができた。また、60株/坪植えのため株内の穂数は少なく㎡株数で多くの穂数を確保しているため、他の2区と比べ株内での競合が少なく、収量も増加したと思われた。

表1 最高分けつ期調査

区分	茎数 (本/株)	茎数 (本/㎡)
供試区①	26.2	486.4
供試区②	25.0	397.5
慣行	28.3	449.2

表2 収量

区分	粗玄米重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	くず米重 (kg/10a)
供試区①	702	696	9
供試区②	697	672	12
慣行	607	600	9

### ○ 今後の方向性

発酵鶏糞を施肥することにより地力低下を補い、初期の生育を確保することと、株内での競合を少なくする60株/坪植えは安定した収量を確保し、収益を生み出すために有用な手段だと思われた。

飼料用米をとりまく状況が変化する中で、収量安定化の手段の1つとして普及指導を行う。

実施機関：芳賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：芳賀町

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315